DMO 観光戦略推進会議 要点録

1. 会議概要

- 日時：令和 8 年 4 月 16 日（木） 13:00〜14:30
- 場所：カンデオホテルズ枚方 19 階 バンケット会場
- 出席者：

  くらわんか観光マネジメント（DMO）：井關代表、小山理事、小野島理事
  枚方市：巽課長、野田主幹、犬伏代理、安倉係長、土井主任、杉本係長、難波主任
  京阪ホールディングス：岡田課長
  カンデオホテルズ：曽我部氏、横山氏
  枚方宿地区まちづくり協議会：田中会長、茨木事務局長
  水都くらわんか花火大会：井上理事

---

2. 開会挨拶（DMO 井關代表）

新年度を迎え、地域 DMO の本登録に向けた動きを加速させる。
登録後の交流人口増加を見据え、実効性のある体制を構築していく意向が示された。

---

3. 枚方市観光地経営戦略および KPI について

■ 登録申請スケジュール

当初は 4 月開始を想定していたが、観光庁への確認の結果、5 月受付開始、7 月末締め切りとなることが報告された。
今後、各事業者の取り組みを取りまとめ、申請内容を確定させる。

■ 戦略目標（KGI）

目指す姿：「楽しい」「おいしい」あふれる京阪奈のど真ん中。
KGI（重要目標達成指標）：

旅行消費額：令和 8 年度（2026 年度）に 200 億円を目標とする（2023 年度実績は約 162 億円 。
経済波及効果については、更新時の必須項目となるため、現在はブランクとしている。

■ 観光地域マーケティング戦略（ターゲット別）

DMO は以下の 3 つのターゲット層を設定し、それぞれの取組方針を示した。

1. 近隣ファミリー層：週末の選択肢作り。家族で 10,000 円程度の体験・飲食セットを提供。
2. 府外からの宿泊者：宿泊者の「ついで消費」を狙う。3,000〜8,000 円程度のナイト・モーニングツアーを提案。
3. インバウンド客：大阪・京都滞在者のマイクロトリップ需要。25,000 円〜の夜の水辺・里山フォト体験等。

---

4. 事業者別 意見交換および情報共有

■ 枚方市

国際化施策：案内板の多言語化や QR コード対応を推進。観光が所管する国際化施策と DMO 活動の連携を図る。
共創プラットフォーム：万博関連の補助金は終了したが、約 300 事業者が参画する「共創・公

民連携プラットフォーム」を活用し、関係人口の増加を目指す。

■ カンデオホテルズ

宿泊動向：3 月は海外比率・利用者数ともに増加 。大阪・京都の宿泊価格高騰により、中間地点である枚方が注目されている。

ブランディング：枚方を「安全・安心・癒やし」の拠点として位置づける戦略を提案。平日限定のスパ割引クーポンの配布が好調であった事例を共有。

データ共有：DMO および市に対して、宿泊データの継続的な提供に協力する姿勢を示した。

■ 京阪ホールディングス

記念事業：東海道 57 次のラッピング電車を 4 月 29 日より運行開始し、スタンプラリー等の街道施策を展開する。

連携ツアー：ひらかたパークを軸にした新しい層へのツアー造成の可能性を検討。

■ 枚方宿地区まちづくり協議会（まち協）

まち協の強み：長年継続してきた活動（五六市など）を戦略に盛り込むよう要望。

ボランティア協力：大規模イベント時など、コミュニティとしてボランティア協力が可能な体制があることを伝達。

■ 水都くらわんか花火大会

運営改善：昨年の課題を踏まえ、階段を有料専用入口にする、トイレを 150 基増設するなど、物理的な導線確保による混雑緩和策を実施する。

5．次回開催

日時：令和 8 年 10 月 22 日（木） 13:00～

以上